

明峰中学校と小瀬高校は、連携型中高一貫校として新たな中高連携を模索し、推進することを通して、「地域の中で歩み、地域に貢献できる生徒」の育成に励んでいます。

連携型中高一貫教育 スポットの授業で「新たな発見」

連携型中高一貫教育の一環として、スポット的授業（先生方が相互に連携校で授業を行う）を行っています。これまでに理科と国語科で、小瀬高の先生が明峰中に訪問し、中学生を対象に授業を行いました。それぞれの授業の様子を紹介します。

9月8日（木）、中学2年生を対象に理科の授業を行いました。授業を担当した宮本先生は、いつもとは違う生徒の皆さんの反応に、たくさん刺激をもらったはずです。今日の授業がきっかけとなって、「理科が好き」な生徒が増えたら今日の授業は大成功ですね。



10月20日（木）、中学3年生を対象に国語の授業を行いました。小林先生は、「わくわく・ドキドキ感じる場面は？」という問いで、言葉の微妙な感じ方の違いについて考える場を設定していました。付箋を使い意見交換することで、自分が考えを可視化し、話し合いを進めました。普段何気なく使っている言葉について問い直してみると、「新たな発見」があるはずです。「わくわく」と「ドキドキ」の境界線はどこにあるのでしょうか…。

ふれあいキャンパス 「多様な他者」とのふれあいを通して

11月8日（火）、連携型中高一貫教育生徒交流事業「ふれあいキャンパス」が開催されました。ふれあいキャンパスは、連携校生徒（小瀬高・明峰中）の交流が最大の目的です。明峰中と小瀬高の生徒は、百人一首やペーパークラフト等の講座に分かれ、様々な活動に取り組みながら互いに交流を深めました。普段の学校生活ではなかなか交流することがない「多様な他者」とコミュニケーションをとることで、自分の世界を広げることができたのではないのでしょうか。



No Challenge No Future